

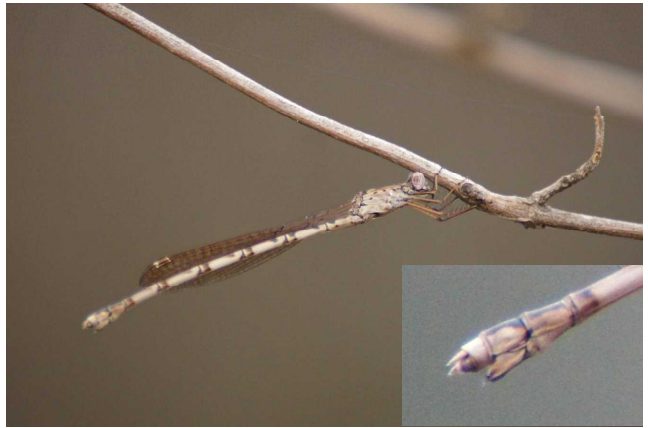
# 牛久：学校周辺に見る自然

第22号 牛久自然観察の森

2020年1月26日発行

## ＜ 冬の牛久自然観察の森 ～ ホソミオツネトンボ（細身越冬とんぼ） ＞

こんにちは。「学校周辺に見る自然」、再開です。先日、1月24日に、牛久自然観察の森を歩いてきました。見たかった生き物の一つが、このホソミオツネトンボ。体が細くて成虫で冬を越すので、この名がつけました。この冬は、比較的多く見かけます。じっとしているので、小枝のようで探すのが難しいかもしれませんが、どうぞ、暖かい服装で挑戦してみてください。 【理科支援員：宮内】



ムラサキシキブの小枝にとまる、ホソミオツネトンボのめす。どこにいるか、分かりますか？  
右は拡大写真で、その右下は腹部の先端です。おすとくらべてみましょう。下につき出た産卵管があります。



コナラの小枝にとまる、ホソミオツネトンボのおす2頭。どこにいるか、分かりますか？ 右は拡大写真で、その右下は腹部の先端です。めすとくらべてみましょう。交尾などの時に、めすの頭をはさめるようになっています。



同じコナラにとまる、12月26日のホソミオツネトンボ。右の枝にいたのが、1月には左の枝に移動したことになる。

4月下旬のホソミオツネトンボ（右がおす）。春になると、しだいに水色に変わっていく。